

授業科目	* 在宅看護学実習				単位	3		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護)		ナンバリング	NU31403J		
開講年次	3~4年	開講時期	後期・前期	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1 DP5-2			
担当教員	石井 美紀代、鹿毛 美香							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>行政保健師として地域看護の実践を経験した実務家教員として、在宅療養について家族を含めた生活のありようを、社会問題と関連して捉えていくことを目指す。</p> <p>在宅看護学実習では、健康上の問題をもって地域で生活する人とその家族のありようを理解するとともに、社会との関係の中から看護問題をとらえ、地域のケアシステムの一員としての看護援助を実践する。実習の場は、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、市内の内科系または小児科系の診療所 等である。</p>							
学生が達成すべき行動目標	看護学実習要項に準じる							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	80	0	0	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			20				20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			15			5	20	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)			5			5	10	
態度 (DP4-2)			20				20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			5			5	10	
技能・表現 (DP5-2)			15			5	20	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
1. 受け持ち療養者の個性性を考慮した看護過程が展開できる。 2. 受け持ち療養者に必要な看護を自ら見出し、オリジナルの看護が提供できる。 3. 地域のケアシステムについてイメージできる 4. 訪問看護から社会の現状がとらえられ、在宅ケアの課題を見いだせる。				1. 教員や実習指導者の助言・指導を受けながら、受け持ち療養者の看護過程が展開できる。 2. 受け持ち療養者を理解し、安全・安楽な看護技術を提供できる。 3. 訪問した療養者の生活から、健康上の問題をもって在宅で生活するために必要な条件が考えられる。 4. 保健・医療・福祉の関係機関・関係職種の機能と、連携の実際について説明できる。				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>【訪問看護ステーション実習】</p> <p>療養者を1名受持ち、実習期間内に3～5回訪問看護師と同行訪問する中で看護過程を展開し、訪問看護師の指導の下、学生主体の看護を提供する。また、実習期間を通して1日に2～4人の療養者に訪問看護師と同行訪問する。さらに、看護師以外の職種との同行訪問や、通所サービス等に参加し、他職種とディスカッションする。</p> <p>これらを通しての学びを、学生グループでディスカッションしながらまとめ、カンファレンスで発表する</p>	同伴訪問実習	看護過程の展開 実習記録	
2	<p>【プライマリメディカル実習】</p> <p>内科または小児科の診療所に、1人から2人ずつ、1日間の実習を行う。</p> <p>内科は、診療所内での診察の介助、訪問診療に同伴する。また、開業医の地域医療活動に同伴または説明を受ける。</p> <p>小児科は、診療所内での診察の介助、乳幼児健診の介助、病児保育の見学と看護提供をする。また、開業医の子育て支援活動、地域医療活動について説明を受ける。</p>	1日見学実習	実習記録	
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				

14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	在宅看護の対象は、小児、成人、老年とすべてのライフステージにわたります。また、複数の疾患をお持ちの療養者が多く、回復期から終末期と多様な疾病の時期にあります。さらに、家族の形態も様々です。そのため、既習の看護の知識を活用できるように、準備してください。			
テキスト	各看護学領域の教科書			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜、紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	家族機能の変化、少子高齢化、医療供給体制の変化、介護保険制度の改正、障害者福祉サービスの改正、などなど、在宅看護に関連することは、毎日のようにニュース等で報道されています。社会の問題を意識的に見聞きしてください。臨地で起きている問題を、個人レベルの問題なのか、社会レベルで考える問題なのかを判断してください。			
達成度評価に関するコメント	看護過程、指定された実習記録、最終レポートを評価の対象とします。看護過程では、指導者に質問し、助言を受けた内容を取り入れているかを含めて評価します。最終カンファレンスの資料も成果物として評価の対象とします。また、その他として、実習において療養者および家族に真摯に向き合ったか、グループでリーダーシップやメンバーシップがとられていたか、指導者やスタッフに積極的に報告・質問・相談をし助言を受けていた			

	か、といった意欲や態度を評価します。
--	--------------------